「三河港の未来を語るシンポジウム」の概要（ちらし）

参考資料４

輸入自動車
台数・金額日本一！

三河港の未来を語るシンポジウム

参加費無料
定員300名
先着順

2025年
2月7日（金）
13:00～15:15（開場 12:00）

申込はこちら

会場：豊橋市公会堂
豊橋鉄道市内線「市役所前」下車 徒歩1分

三河港は日本経済を牽引する港であり、今後もその役割を継続していくことがこの地域の発展につながります。
このシンポジウムは、各界を代表する有識者に三河港の未来について語っていただく貴重な機会ですので、是非、この機会に三河港の未来を一緒に考えませんか。

LNGバンカリング船

基調講演

「三河港の魅力と期待」

大脇 崇（おおわき たかし） 氏
公益社団法人 日本港湾協会 理事長

パネルディスカッション

「三河港の未来について」

各界を代表するパネリストがそれぞれ官民の立場から三河港の未来について語り合います。

共催　愛知県・三河港振興会

基調講演（13:15～14:05）

「三河港の魅力と期待」

大脇 崇（おおわき たかし） 氏　公益社団法人 日本港湾協会 理事長

三重県四日市市出身
1983年京都大学大学院修了、Ph.D（ペンシルベニア大学）1983年運輸省（現国土交通省）入省
港湾局長、大臣官房技術総括審議官などを経て2016年退官
2018年パナマ共和国駐箚特命全権大使 2022年より（公社）日本港湾協会理事長

パネルディスカッション（14:05～15:10）

「三河港の未来について」

コーディネーター	戸田 敏行（とだ としゆき） 氏	愛知大学 地域政策学部 教授
パネリスト	神野 吾郎（かみの ごろう） 氏	豊橋商工会議所 会頭
パネリスト	泉 純太（いずみ じゅんた） 氏	トヨタ自動車株式会社 事業開発本部 エナジーソリューション事業部 蓄電システム事業室長
パネリスト	西尾 保之（にしお やすゆき） 氏	国土交通省 中部地方整備局 副局長
パネリスト	鈴木 寿明（すずき としあき） 氏	蒲郡市長

アクセス

会場
豊橋市公会堂（大ホール）
豊橋市八町通二丁目22番地

豊橋駅より豊橋鉄道市内線乗車。
「市役所前」下車徒歩1分。

※お車でお越しの場合は豊橋市役所の駐車場をご利用ください。
駐車券を会場にお持ちいただければ無料にいたします。

プログラム

13:00 主催者挨拶
13:05 三河港の概要説明
13:15 基調講演
14:05 パネルディスカッション

申込方法【申込期限：2025年2月3日（月）】

・右の二次元コード又は下のURLから参加申込みフォームにアクセスし、必要事項を入力の上、お申込みください。
・定員に達したところで申込みは締め切らせていただきます。
・ご記入いただいた個人情報は、本シンポジウム開催に関する目的でのみ利用させていただきます。

【URL】https://forms.office.com/r/qarQcAShaD

問合せ先
愛知県 都市・交通局 港湾課 経営グループ
TEL:052-954-6966　E-mail:kowan@pref.aichi.lg.jp

「三河港の未来を語るシンポジウム」

結果

【基調講演「三河港の魅力と期待」】

＜三河港への期待＞

- **完成自動車のハブ港**として先端技術を駆使した効率化
- 立地条件の優位性を活かした更なる**産業立地**の促進
- 周辺地域の**農林水産物の輸出・移出**の拠点形成
- 三河湾の広い海域を活かした観光拠点、**みなとまちづくり**の推進
- 多様な主体の協力による豊かな**海域環境**の保全
- **カーボンニュートラル**実現に向けた先導的な取組
- 大規模地震・津波・高潮から臨海部を守る**協働防護**の推進
- **交通アクセス**の改善による交通混雑の解消と背後圏の拡大

【パネルディスカッション「三河港の未来について」】

三河港は、地理的な優位性、産業の集積、広い水域による多様性など、高いポテンシャルを有し、地域経済のみならず、日本を牽引してきた。近年は、完成自動車の世界的な拠点として発展してきたが、さらにこれからの**新しい展開を考える時期**にある。

＜分野別の主な意見＞

物流・産業

- この地域には、日本有数の自動車関連企業が集積していることに加え、日本を代表する企業の**マザー工場**が立地していることに注目することが大事である。
- 名豊道路を始め道路のミッシングリンクがつながり始めており、浜松湖西豊橋道路や三遠南信自動車道の整備により、東西軸と南北軸が結節する日本のへそになる。港では、臨港道路東三河臨海線の検討が進められており、**三河港周辺の道路の整備計画**が着実に進んでいる。
- 世界的な潮流であるGX、DXを掛け合わせた時に、資源の有効利用が大事なポイントとなり、**次の時代に重要となるサーキュラーエコノミー**という考え方がでてくる。今後は、金属、木材、バッテリーなど、全てのものが物流を中心に一層リサイクル化していく。
- 電動車のカーボンニュートラルを進めるためには、再エネの拡大が欠かせず、トヨタ自動車では、燃料になる電気の需要と供給を調整するため、廃車の中古電池を有効活用した電気の溜池（蓄電システム）をつくっている。**サーキュラーエコノミーを自動車産業**で進めていく。また、中古電池と簡素な半導体を組み合わせた、規模の大きい蓄電所の建設に向けて実証事業を進めている
- 港湾局では**サーキュラーエコノミーポート施策**を検討しており、三河港は素地があるため取り組んで欲しい。
- エネルギーの面では、水深が比較的浅い三河港にとって、**名古屋港、衣浦港との連携**が重要になる。
- 日本の港湾は世界に比べて、DX、自動化の面で立ち遅れているため、しっかりとした取組が必要である。
- 背後地には東南アジアや中国向けの荷物はあるものの、航路がない状況であり、航路を誘致するには、既存**クレーンの能力不足**を改善することが望ましい。伊勢湾には、既に東南アジアや中国航路があるため、これらを誘致することが重要である。
- 神野地区は、新たな土地が確保しづらいなかで、現状、自動車、コンテナ、倉庫などの機能が展開されているため、**土地の再編**を考える必要がある。

安全・防災

- 港湾は、地震発生時に支援物資の輸送やホテルシップとして作業員の宿泊や休憩施設として利用されるなど、様々な支援の拠点として重要な役割を果たしている。
- 気候変動に伴い今後潮位が上がり、波が高くなるため、民間と公共が協力して対策を行う**協働防護**を進める必要がある。
- 自動車を多く取り扱う港湾では、高潮や浸水対策として、**モータープールの重層高層化**が解決策の一つになる。
- 能登半島地震では、一部復旧した地域がハブとなり活気が広がったことから、トヨタ自動車の田原工場も**地域のハブ**となり、地域を活性化する拠点としたい。

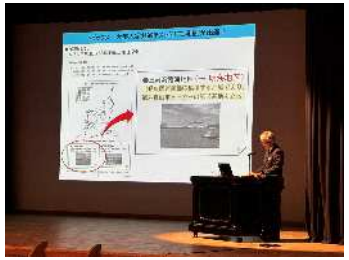
人流・交流

- **クルーズ船の寄港**は、利用者に自然豊かな三河の風景や県内各地の観光を楽しんでもらうことができ、観光面で経済の活性化も期待できる。
- 蒲郡東港地区は、駅から近く、観光地の竹島に隣接し、穏やかな三河湾に面した立地環境を活かし、旅客船で賑わったかつての風景を取り戻しながら、**駅から港へ日常的に人が行き交う魅力的な地区**にしたい。計画実現に向けて、社会実験による検証を重ね、民間資金を活用する「みなと緑地PPP」の導入を視野に民間とも役割分担し取り組む。

環境

- 蒲郡市では、豊かな自然を守り、経済を活性化させる循環型まちづくりを推進するサーキュラーシティを目指し、消費、教育、健康、食、ものづくり、交通、観光など、ほぼ全ての行政分野で取組みを始めており、今後は、内陸の市とも協力し、**サーキュラーエコノミーを東三河全体**に広げていきたい。
- 港湾エリアでは、可燃ゴミのバイオマス発電燃料への利用や、使用済紙おむつの再生利用など、資源循環やマテリアルリサイクルの推進に向けた検証が行われており、今後、サーキュラーエコノミーを進めていくためには、**資源を還流させる港**の役割が重要になる。

港湾運営

- グローバル経済のなかでのロジスティックスの観点や、サーキュラーエコノミーなどの新しい産業への対応などを俯瞰で捉え、国、県がつくった港湾インフラや産業基盤を最大限に活かし、**総合的、戦略的に港の運営ができるマネジメント組織**が必要である。
- 今までの**港湾計画**は、埋立地やふ頭をつくるというインフラ中心の計画だったが、GX、DX等の**ソフトの部分や、それらを運営する組織に踏み込んだ計画**になるといい。

＜シンポジウムの開催の様子＞